

湘南・県央エリア

(1)事業概要

- 地方自治体：神奈川県
- 課題：「光機能材料を中心とした都市近郊環境対策技術の開発」
- 中核機関：財団法人 神奈川科学技術アカデミー
- 核となる研究機関：東京大学、慶應義塾大学、神奈川県農業技術センター、神奈川県衛生研究所、(財)神奈川科学技術アカデミー
- 概要：本事業では、(独)科学技術振興機構(JST)の「地域結集型共同研究事業」等による光機能材料に関する有望な研究成果の集積及びネットワークを活用し、大学等の知的資源を育成して地域社会に還元する。

そのための取組として、「湘南・県央エリア」において「光機能材料を中心とした都市近郊環境対策技術の開発」を行う。具体的には、神奈川県が環境と共生する都市として「環境共生モデル地域」と位置付けている湘南・県央エリアの都市近郊環境ニーズ及び当エリアに集積する公設試験研究機関に着目し、快適な都市生活環境の保全とそれらと調和する環境保全型農業等の実現を目指して、成果育成事業(2課題)及び可能性試験を含む研究交流事業を実施する。

(2)評価

本地域では、住宅、農畜産業、工業地帯が混在する「都市近郊地域」としての特性を踏まえ、環境保全と新産業の創出に資する都市近郊環境対策技術の知的発信基地となることを目指して、光触媒や光機能性材料に関する独創性の高い研究開発が進められた。この結果、近い将来事業化も狙える研究成果がいくつか認められる等、当初の目標は、概ね達成していると判断される。しかしながら、事業化に向けた産学官の人的資源の配分という観点からみると、大学、公設試験研究機関及び企業とも、化学者や材料開発の専門家等が主体で、「物を作る」エンジニアリング分野の企業の参画が、多少不足していたように感じられる。今後、事業化に向けては、エンジニアリング分野の企業との連携も強化していくことが求められる。

事業計画については、概ね適切に策定されているとともに、必要に応じて見直しが見られる等、評価できる。今後、事業化に向けては、より一層法規制等の社会的環境の変化や市場の動向をにらんだ事業計画の策定を期待したい。

研究開発については、光触媒や光機能性材料という工学的な手法を、農業や薬学の分野に適用し、重要な知見を得たことは、新たな試みとして、評価できる。今後も、更なる工夫をかさねた研究の継続を期待したい。

地域の取組みについては、県の関連施策が、本事業と概ね良好に連携しているほか、

本事業の成果を、農林水産省、経済産業省及びJST関連の施策へ展開させることを予定しており、評価できる。今後も、地域の取組みを強化して、本事業の成果が自治体・関係府省等の施策に展開され、事業化につながることを期待したい。

(3)項目別評価結果

1. 目標達成度		A
2. 事業計画		A
3. 事業成果	(1)連携基盤の構築	A
	(2)研究開発の成果	A
4. 地域の取組	(1)これまでの取組	A
	(2)持続性・自立性	A